

学校の特色ある取組事例

【小学校】

- 神崎小学校 「德育の涵養を本体とする知・徳・体の調和のとれた教育の推進」
- 濑野小学校 「学校や家庭との連携により『基礎・基本』の定着を図った取組」
- 落合東小学校 「安心して生活できる学校・学習に前向きに取り組む児童を目指して」
- 口浦小学校 「『口浦スタンダード』で学ぶ意欲の向上を」
- 長東小学校 「『長東スタンダード』の徹底と教師の授業力向上により学力アップ」
- 青崎小学校 「全教職員で授業改善の取組の方向性を共通理解」
- 南観音小学校 「授業研究の日常化を図る取組」
- 安西小学校 「めざす児童の姿の具体化と共有化」
- 石内小学校 「『ゴールから作成する』授業作り」

【中学校】

- 矢野中学校 「効果的な指導方法等を全教員が共有し、継続的に実施した取組」
- 二葉中学校 「生徒の自己肯定感や自尊感情を高める取組」
- 濑野川中学校 「小中が学習指導と生徒指導の両面で連携した取組」
- 安佐南中学校 「学力調査を分析し、生徒の課題に重点をおいた指導の取組」
- 井口中学校 「単元を貫く課題解決的な言語活動の取組（国語）」
- 五日市南中学校 「誤答分析で生徒の見方・考え方を育成する取組（数学）」
- 中広中学校 「技能統合型の活動を通してコミュニケーション能力を育てる取組（英語）」
- 東原中学校 「主体的な探究活動を通して科学的な思考力・表現力を育てる取組（理科）」

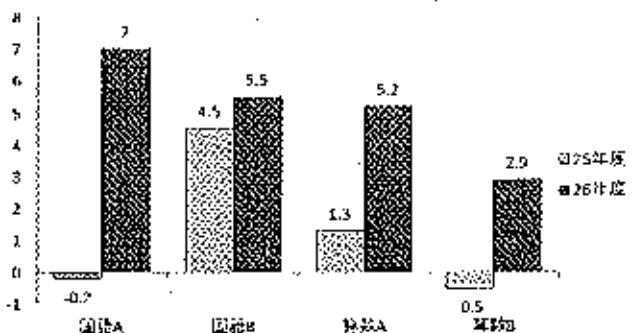
神崎小学校

～徳性の涵養を本体とする知・徳・体の調和のとれた教育の推進～

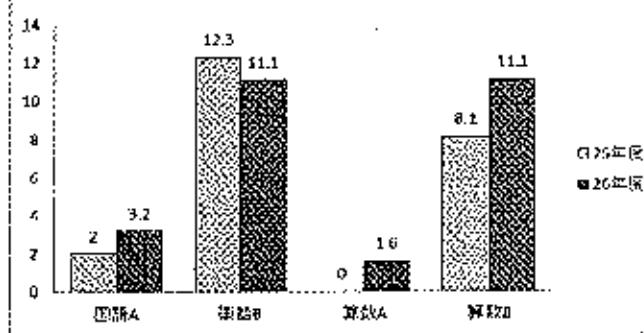
1 全国学力・学習状況調査の結果

- 全国学力・学習状況調査において、平成26年度は、国語AB、算数ABともに全国平均を大きく上回りました。
- 30%未満の割合については、まだ課題が見られます。

平成25・26年度全国学力学習状況調査(全国との差)



平成25・26年度全国学力学習状況調査(30%未満)



2 効果があったと思われる取組

- (1) 内面に根ざした道徳性や志の育成をとおして、生涯にわたって学び続けようとする意欲や態度を育てています。また、学校・家庭・地域が校訓「志高く美しく」のもとに教育内容で結び付いた「まちぐるみの教育」を推進しています。
- (2) 見通しのある問題解決学習や児童どうしの関わり合い活動を重視した授業を行うことで、思考力・表現力を伸ばし、確かな学力の向上に努めています。
- (3) 体力つくりタイムやロング休み憩の取組をとおして、健康・体力の向上に努めています。また、陸上や水泳、合唱など、何事にも果敢にチャレンジし、変化・成長する喜びを感じ、自分に自信をもつ子どもの育成に努めています。

(1) 内面に根ざした道徳性の育成

互いを思いやる温かい人間関係づくりと豊かな体験を通して、内面に根ざした道徳性の育成に努めています。

具体的には、次のような取組を行っています。

- ① 「校の三か条」「神崎っ子の誓い」を全領域の指導に浸透させています。
- ② 人生の指針となる詩文の朗読・吟唱など、「美しい日本語」指導を実施しています。
- ③ 民話・神話、伝記、歴史をそれぞれ低、中、高学年に位置付けた読書指導を推進しています。
- ④ 道徳の時間を要として道徳教育、キャリア教育、平和教育の充実・推進に努めています。

【校の三か条】①進んで挨拶をする子 ②はっきり返事をする子 ③廢き物を丁寧に捨てる子

【神崎っ子の誓い】みんなを笑顔にするために ①自分に負けではありません ②嘘をついてはなりません ③いじめをしてはなりません ④卑怯であってはなりません ⑤無作法であってはなりません ⑥父母を愛し、年上を敬い、先生を尊ばなければなりません 私も笑顔になるために



必ずしょ。させしょ。こなれ。

乳幼児期から教るべき具体的な行動を示した「躾の三か条」は、ステッカー・や幟旗などの見える化により、地域や家庭での浸透を図っています。また、人生を貫く指針となるべき姿勢や考え方を示す「神崎っ子の誓い」は、「躾の三か条」とともにカードにし、児童のランドセルに付けて登校させるよう家庭にお願いをしています。学校では、「躾の三か条」「神崎っ子の誓い」を暗唱させるとともに、生活指導や学習指導、道徳教育とリンクさせ、浸透を図っています。このように、学校・家庭・地域が教育内容を共有し、同じ方向性をもって児童を育てています。

(2) 思考力・表現力を伸ばす授業

「基礎・基本」定着状況調査の分析結果を授業に生かすため、研修会を夏季休業中に2回行い、課題を整理し、各学年の指導改善のポイントを明らかにしました。さらに、こうした分析に対応したドリルタイムを系統的・計画的に実施し、基礎的な知識・技能を確実に習得させることに努めました。

日常の授業については、「できた！」「分かった！」「もっとやってみよう！」と子どもの満足度を100%にすることができるよう、基礎的な知識・技能を確実に習得させるとともに、授業のねらいに迫る価値ある体験活動、見通しのある問題解決学習、豊かな関わり合い活動を重視し、思考力・表現力を伸ばしています。

具体的には、次のような取組を行っています。

- ① 低、中、高学年の各ブロックで行う授業研究や若手教員のための師範授業など、全教員が年間2回授業を公開し、校長や教頭から指導・助言を受けています。
- ② 実態を踏まえたドリルタイムを系統的・計画的に実施しています。
- ③ 「神崎っ子・学びのルール」に基づき、規律ある学習態度の育成に努めています。
- ④ 志を育てるキャリア教育、平和教育の推進・充実に努めています。
- ⑤ 放課後の学習指導を計画的に実施する方策を検討しています。

(3) 健康・体力の向上

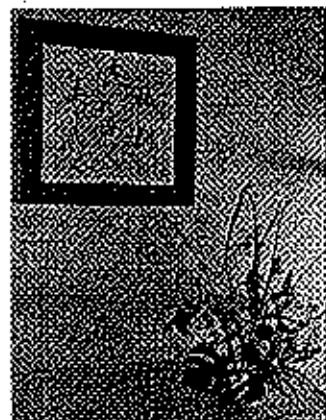
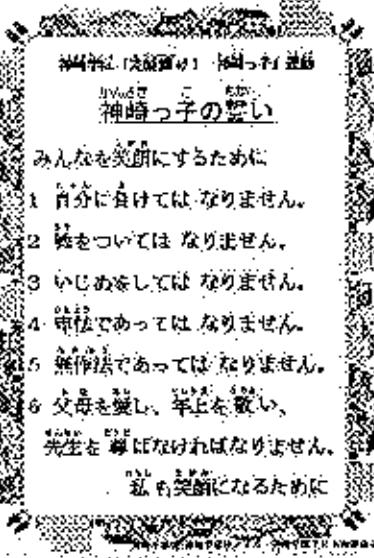
基本的な生活習慣を確立し、健康の保持増進と体力の向上に努めるとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成に努めています。

具体的には、次のような取組を行っています。

- ① 体育の授業における体力つくりタイムを計画的に実施しています。
- ② スポーツ大会を年間2回程度計画的に実施しています。
- ③ ロング基休憩を週1回計画的に実施しています。

【校長先生からのメッセージ】

本校の取組は、学力向上のみに特化したものではなく、学校・家庭・地域が一体となり、徳性の涵養を本体とする知・徳・体の調和のとれた教育を推進していることに特徴があります。取組の重点事項の一つ一つに価値をもたせ、関連付けることで、指導の充実を図っており、こうした取組の一つに「確かな学力の向上」があります。学校教育目標である「夢や志をもち、ともに未来を切り拓く子どもの育成」を目指して重点事項の取組を徹底することが、児童の学力を向上させることにつながっています。

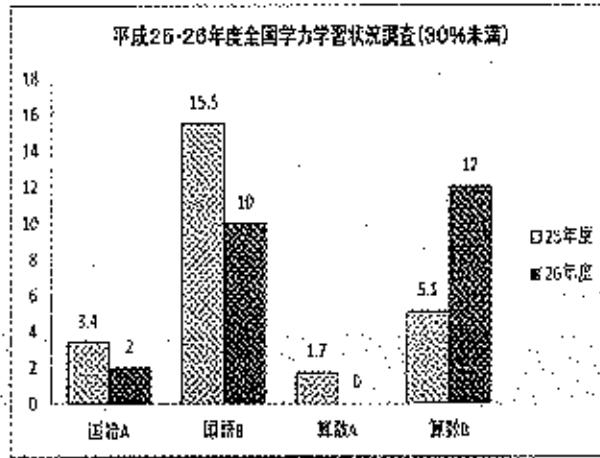
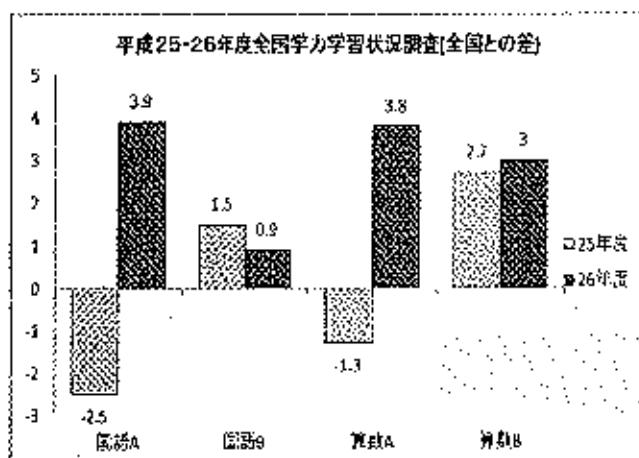


瀬野小学校

～学校や家庭との連携により「基礎・基本」の定着を図った取組～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A、算数A,Bにおいて、全国、県、市平均を上回り、学力の向上が見られました。
- 国語A,B、算数Aにおいて、30%未満の児童の割合が減少しました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 学力調査の結果や課題を全職員で共通理解し、授業改善を行ったり反復学習に生かしたりしています。
- (2) 毎の朝時間の「チャレンジタイム」に加えて「朝の学習タイム」を設け、基礎学力の向上と定着を目指した取組を実施しています。
- (3) 家庭と連携した「家庭学習スタンダード」の取組で、児童の家庭学習習慣の定着と向上を図っています。

(1) 学力調査結果の課題を克服するための授業づくり

毎年、学力調査の結果から、教科ごとに本校の課題となっている内容を把握・整理し、全職員で共通理解を図り、授業改善と反復学習を進めています。

平成23年度の「基礎・基本」定着状況調査の算数科の平均通過率は、広島県平均を7ポイント、広島市の平均を4.5ポイント下回っていました。そこで、平成24年度より研究教科を算数科とし、基礎的な知識や技能の習得と定着を目指した取組を中心に研究を進めてきました。課題となっている単元を重点単元とし、その単元

平成23年度 算数の学習実態		評議会
学年	学年	評議会
1年	2年	3年
4年	5年	6年
7年	8年	9年
9年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年
97年	98年	99年
99年	00年	01年
01年	02年	03年
03年	04年	05年
05年	06年	07年
07年	08年	09年
09年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年
97年	98年	99年
99年	00年	01年
01年	02年	03年
03年	04年	05年
05年	06年	07年
07年	08年	09年
09年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年
97年	98年	99年
99年	00年	01年
01年	02年	03年
03年	04年	05年
05年	06年	07年
07年	08年	09年
09年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年
97年	98年	99年
99年	00年	01年
01年	02年	03年
03年	04年	05年
05年	06年	07年
07年	08年	09年
09年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年
97年	98年	99年
99年	00年	01年
01年	02年	03年
03年	04年	05年
05年	06年	07年
07年	08年	09年
09年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年
97年	98年	99年
99年	00年	01年
01年	02年	03年
03年	04年	05年
05年	06年	07年
07年	08年	09年
09年	10年	11年
11年	12年	13年
13年	14年	15年
15年	16年	17年
17年	18年	19年
19年	20年	21年
21年	22年	23年
23年	24年	25年
25年	26年	27年
27年	28年	29年
29年	30年	31年
31年	32年	33年
33年	34年	35年
35年	36年	37年
37年	38年	39年
39年	40年	41年
41年	42年	43年
43年	44年	45年
45年	46年	47年
47年	48年	49年
49年	50年	51年
51年	52年	53年
53年	54年	55年
55年	56年	57年
57年	58年	59年
59年	60年	61年
61年	62年	63年
63年	64年	65年
65年	66年	67年
67年	68年	69年
69年	70年	71年
71年	72年	73年
73年	74年	75年
75年	76年	77年
77年	78年	79年
79年	80年	81年
81年	82年	83年
83年	84年	85年
85年	86年	87年
87年	88年	89年
89年	90年	91年
91年	92年	93年
93年	94年	95年
95年	96年	97年

について講師を招へいして理論研修と授業研究を実施しました。

日々の授業づくり具体的な取組として、「プレテスト等児童実態把握を踏まえた指導」「効果的なノートの使い方の指導」「算数的活動の充実」「ＩＣＴの利活用」が挙げられます。算数的活動の充実として、自力解決の時間の最初に必ず見通しを持たせること、児童の様子を見取りながら自力解決の設定時間を変えること、線分図の活用などが挙げられます。また、パソコンや実物投影機を活用して、大型テレビに活動の手順を提示したり児童の発表場面で使用したりすることで、児童一人一人が視覚的に理解しやすい全員参加の授業を目指しています。

(2) 「朝の学習タイム」や「チャレンジタイム」での反復学習の充実

「全国学力・学習状況調査の結果」「基礎・基本定着状況調査」の結果を経年比較により分析しました。すると、年によって正答率の低い内容と毎年正答率が低い内容が明らかになりました。毎年正答率が低い内容については、「定着しにくい内容」ととらえ、該当学年だけでなく、上学期でも繰り返し学習する必要があると考えました。そこで、主にチャレンジタイムを活用して「定着しにくい内容」を繰り返し学習することとしました。しかし、5・6年生のチャレンジタイムは、ひろしま型カリキュラムの英語科の学習が中心で、国語科や算数科、理科に充てることができません。

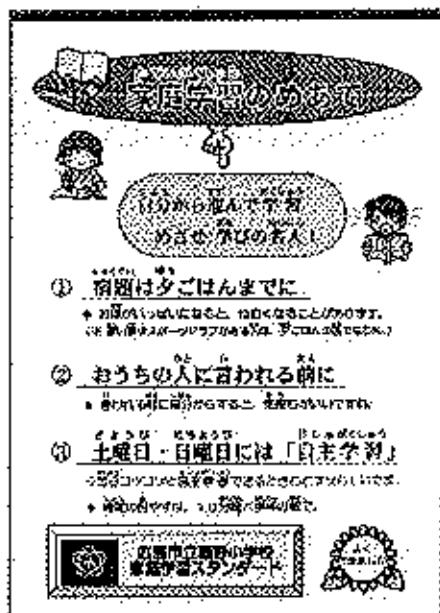
そこで、本校では週4回の朝の読書タイムの時間を週2回「朝の学習タイム」とし、全学年で基礎的な知識・技能の定着を図るため「定着しにくい内容」を中心に計画的に取り組んでいます。

(3) 家庭と連携した「家庭学習スタンダード」の取組

今年度から、学校と家庭が共通の認識をもって、児童の家庭学習習慣を向上させるための「家庭学習スタンダード」を作成し、家庭学習の充実を図っています。

年度始めの学級懇談会や学校便り等で「①宿題は夕ご飯までに」「②おうちの人によわれる前に」「③土曜日・日曜日には自主学習」の3点について、保護者に学校の取組について周知を図りました。また、児童にも学校朝会や朝の会などで児童に指導しました。②についてはまだ十分とはいえないですが、①については、家庭での声かけもあり、実践できる児童が増えています。

③について、平日は、ドリルやプリント中心の家庭学習、週末は児童が興味をもつたことや調べてみたいことなどを自主学習するという形が定着してきています。また、児童の自主学習の内容を担任が学級で紹介したり、学級だよりに掲載したりすることで、児童のやる気を引き出しています。



【校長先生からのメッセージ】

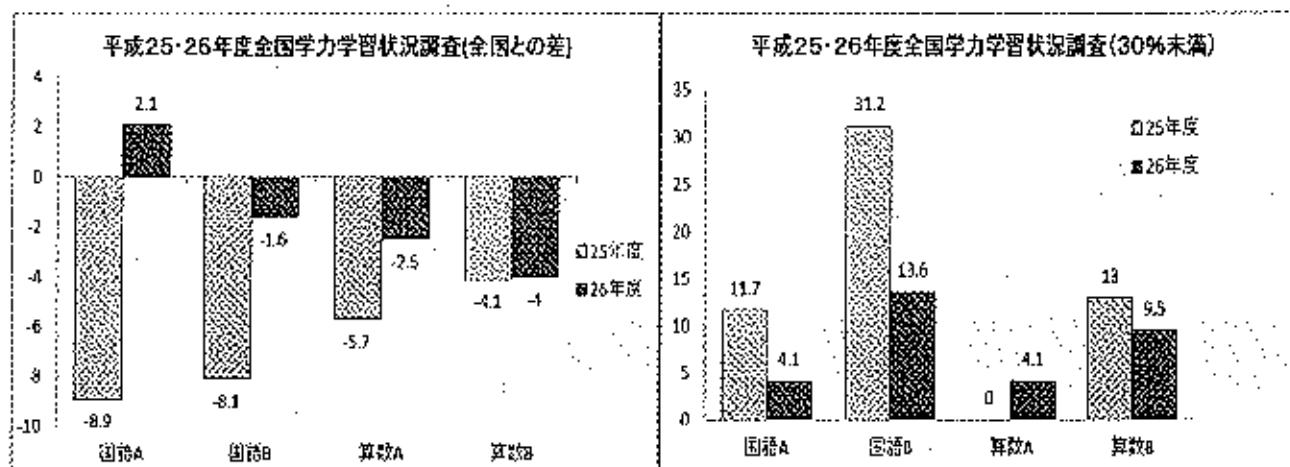
児童の成長において、目に見えにくい内面的な指導も重要ですが、教師の取組の成果や児童の努力が結果に表れやすい指導も大切だと考えています。いわゆる「成果の見える化」をめざし、まず「基礎・基本の定着」を最優先に取り組みました。児童が「わかる!」「できた!」を実感したことや、教師も指導の成果を実感できたことが良いサイクルを生んでいます。

落合東小学校

～安心して生活できる学校・学習に前向きに取り組む児童を目指して～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A B、算数A Bともに全国平均との差が大きく改善されました。特に国語Aでは、全国平均を上回りました。
- 30%未満の児童の割合が改善されました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 「みそあじ」の徹底で学校生活の安定を図る
- (2) 「分かった」「できた」「かかわった」を実感させる授業づくり
- (3) 人材育成に視点を置いた校内体制づくり

(1) 「みそあじ」の徹底で学校生活の安定を図る

み…身だしなみを良くする。

そ…掃除をする。

あ…あいさつする。

じ…時間を守る。

9年間で子どもを育てるというスタンスをもち、「みそあじ」のように、あたりまえのこと、あたりまえに生活に必要な基本的な生活習慣を身につけることを目指して、中学校区が連携を図り、児童・生徒につけたい力を明確にし、3校で共通する課題（基本的な生活習慣の確立、学びのルール等）に取り組んでいます。



(2) 「分かった」「できた」「かかわった」を実感させる授業づくり

「落合中学校区共通学習課題」に基づいて授業改善を行ってきました。

「分かった（自己存在感）」

「できた（自己決定）」

「かかわった（共感的人間関係）」

を含む言葉に、「生徒指導の三機能」が実際の授業場面で機能するよう手立てを行っています。

全クラスでのめあての提示を行い、学習のめあてが分かりやすい課題づくりを行っています。「なんかできそうだな」「おもしろそうだな」「ならったことをつかえそうだな」と想えるような課題を設定する。そして、どのように課題を提示すればより意欲的に取り組めるのかを考えています。

また、ふり返りを大切にしたテストや教材の選定を行い、児童のふり返りと同時に児童の力を見取れるよう、教員へも意識付けを行うことにしています。さらにドリルタイムの充実や給食配膳中の時間での学習フォロー、家庭学習の工夫など、30%未満の児童を減らす取組も行っています。

(3) 人材育成に視点を置いた校内体制づくり

校長、教頭が若手教員、ミドルリーダー、ペテラン教員のそれぞれを育成する視点をもち、教師一人一人の力量向上を目指した学校経営を行っています。

若手教員には、研修会としてフレッシュアップ研修を定期的に開催し継続しています。学級経営力に焦点を絞り、特別活動や特別支援教育の考え方を取り入れたワークショップ形式の研修を行い教師としての力量向上を目指します。ミドルリーダーには、自身の自己申告の重点課題に若手の人材育成の視点を位置付け、具体的な取組を明記させるようにすることで、その成果を正答かつ確実に評価するようにしています。ペテラン教員には、生徒指導主事などキーパーソンの役割を与え、情報連携システムの周知を図ることで教職員や学級の実態把握に努めます。そして、若手への講師として育成に参加してもらいます。

教職員がチームの一員としての共通理解のもと、児童と同じように前向きに取り組む姿勢を持つ体制をつくっていることが、本校の強みと言えます。

【校長先生からのメッセージ】

校長の役割は、方針・基準の明確化であり、「分からない」「知らない」「できない」と言う児童を減らそう、授業に参加させようと取り組んできた前校長のよい流れを受けて、児童が当たり前のことを当たり前にできる学校生活の安定を目指しています。そのためには、学校生活の落ち着き、教職員の共通理解がまず大切なことだと考えています。

今年度はさらに授業改善を行い、基礎基本の定着を大切にした学力向上に取り組んでいるところです。

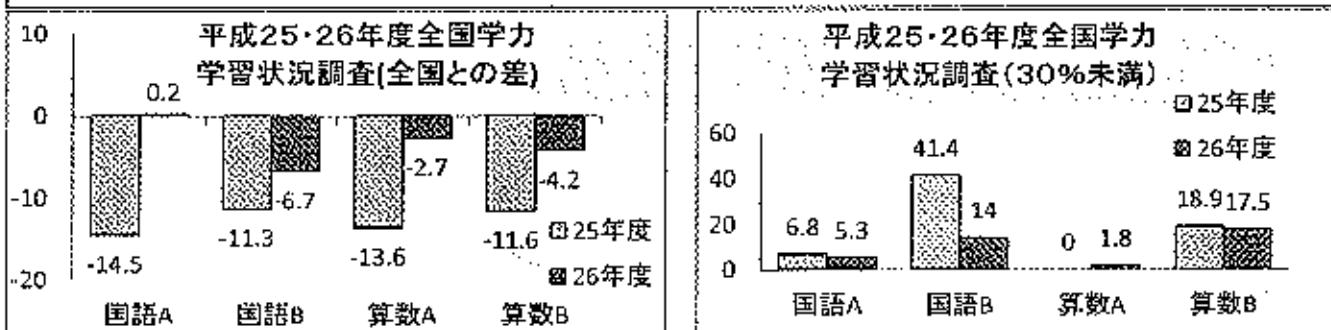
日浦小学校

H24・25 広島市特別支援教育推進校

～「日浦スタンダード」で学び意欲の向上を～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A B、算数A Bとともに学力の向上が見られました。特に国語のA問題は、全国平均を上回りました。
- 国語A B、算数Bにおいて、正答率30%未満の児童が減少しました。



- (1) 「日浦小学校ガイドブック」に「日浦スタンダード」を掲載し全家庭に配布することで、学校・家庭・地域が連携を図り児童のよりよい育成に努めています。
- (2) 特別支援教育の視点に立ち研究を進めることで、どの子にも分かる授業づくりを進めています。
- (3) 「学び合い、つながり合う」学習の場面を工夫することで、互いの考え方を高め合う力の育成を図っています。

2 効果があったと思われる取組

(1) 日浦小学校ガイドブック「日浦スタンダード」

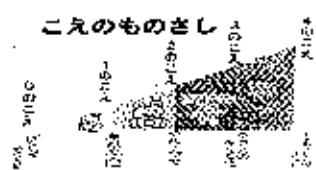
学校・家庭・地域が同じ内容のことを児童に指導できるように、「日浦小学校ガイドブック」を作成しています。学校経営全体構想をはじめ、1年間の行事や日課表を掲載して学校教育についての理解を図ったり、「日浦スタンダード」として学習のきまりや学校生活のきまりを掲載し学校・家庭・地域で指導の共通理解を図ったりしています。

この取組により児童は、家庭・地域でも、そして学校で学年・担任が代わっても6年間同じスタイルで学習することができるため、安心して学校生活を送ることができます。そして、児童の学習意欲向上につながっています。

【学習のきまり】

・教科別	1 教科の教科標準ノートなど、必要なものを朝読する。 2 ディズニーカードによるよみこなし、読みに参加。 3 おもなことわざで運動会などのみみみであります。 4 先生が教えることをしっかりと聞く。 5 読むときに手をすく。 6 教科書は机の上に置かない。 7 飲められない、匂い、と迷惑をしてしまう時はしない。 8 おもなことわざで収集の仕事があるときをする。 9 おもなことわざをしながらおこなう。 10 おもをきちんととる。それができないときはね。
------	---

【こえのものさし】



【家庭学習のめやす】

年	月	週	日
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	32
33	34	35	36
37	38	39	40
41	42	43	44
45	46	47	48
49	50	51	52

(2) 特別支援教育の視点に立った授業づくり

「支持的学級風土」づくりからスタートしました。教師と児童、児童同士が信頼関係を構築するために、特別活動等で児童の自己決定を保障したり、達成感のある活動を組んだり、教師が児童一人一人のよさを見つけ、ほめたりするなど、児童の心を温めるところからはじめました。

そして、児童の育ってきた背景や児童自身の特性を理解し、どんなことが苦手なのか、どんなことが得意なのかを見極め、適切に支援します。見極めた支援は、他の児童にも有効な支援と考えるユニバーサルデザインの授業設計を共通理解し、教材の提示方法や学習展開を改善して「学び合い、つながり合う授業づくり」に取り組んでいます。

③ 「字ひ合い、つなかり合う」学習場面の工夫

年度はじめに、「日浦スタンダード」の授業として学習モデルを提示したり、「具体的な目指す児童像」「学ぶ意欲を育む10のポイント」等を確認したりして、全教職員で研究の方向性について共通理解を図ります。

「学び合い、つながり合う」学習場面として協同学習を設定し、各学年で目指す協同学習のゴールや目指す児童の姿を示し、全教職員で共通理解を図ります。

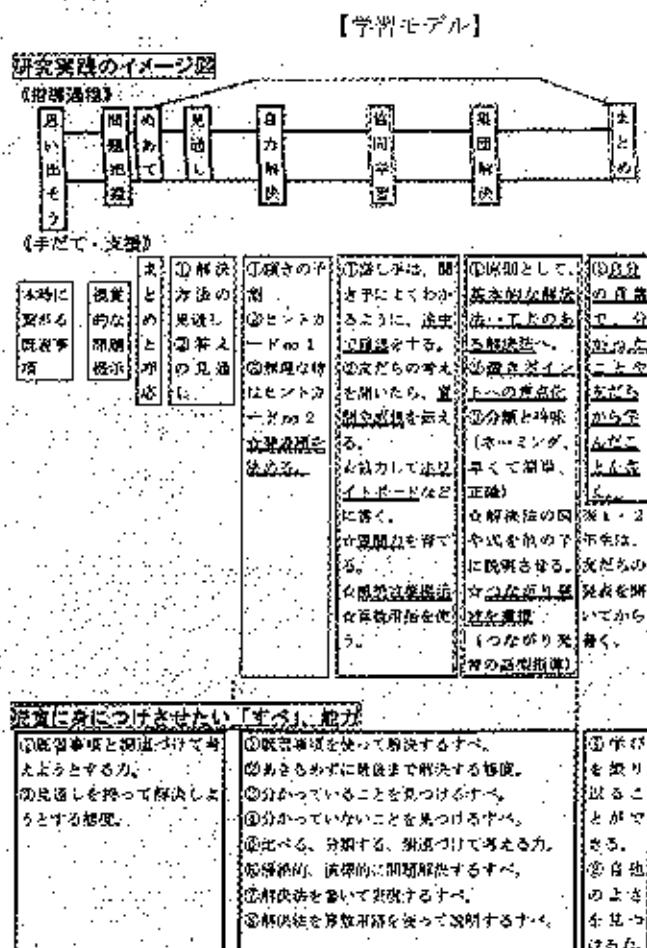
授業では、ペアやグループ学習を効果的に取り入れ、すべての児童が学習に参加できるように児童の学習意欲を高める工夫をします。そして、児童の様子をよりよく見取り、児童の実態に合わせた支援を行うことを目指します。

校内研究授業では、授業者は抽出児童を選んで学習指導案の中に具体的な支援を記述し、参観者はその支援が効果的かどうかを検証していきます。具体的な児童の姿から協議をすることは、明日からの目指す児童の姿につながっています。

【校長先生からのメッセージ】

本校は、教育上配慮を要する児童も含め、通常の学級におけるすべての児童の特性に配慮し、指導内容や指導方法を工夫した適切な教育的支援をすることを目指しています。

具体的には、互いのよさを認め合い、安心して落ち着いて学習に取り組むための支持的風土づくりや、学習のきまりや約束（日浦スタンダード）づくりなど、主に学習環境の整備を行い、一人一人の学ぶ意欲を育む授業づくりを行っています。



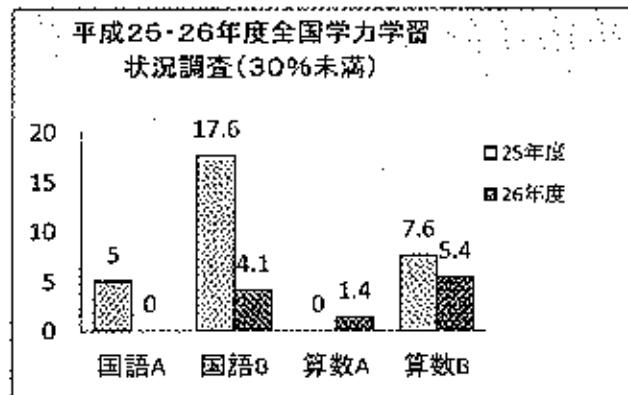
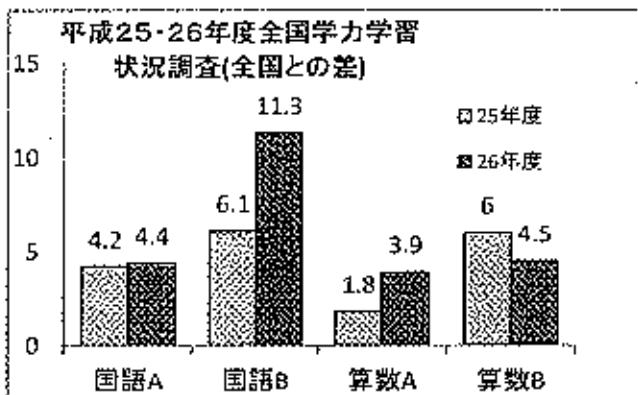
長束小学校

H24～26 広島県学力向上総合対策事業指定校（タイプI）

～「長束スタンダード」の徹底と教師の授業力向上により学力アップ！～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A,B、算数A,Bとともに全国平均を上回ることができました。特に国語のB問題は全国平均を大きく上回っています。
- 国語A,B、算数A,Bともに30%未満の児童の割合を大きく改善しています。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 児童に学ぶ意欲と学習習慣を身に付けるため、長束スタンダード（生活の手引き・学習の手引き）を徹底し、教職員が共通した指導を行っています。
- (2) 広島県学力向上総合対策事業に係る中学校区の研究を進めるとともに、一人年2回の研究授業やミニ研修、ICTを効果的に活用したわかる授業づくりを進めるなど、教師の授業力を高める取組を推進しています。
- (3) 基礎的・基本的な学力の定着を図るために、日課を見直したり、長束タイム（時間）を充実させたりする取組を進めています。

(1) 長束スタンダードの徹底

児童に学ぶ意欲と学習習慣を身に付けるために、全教職員でこれだけは統一して指導するという長束スタンダード（学びの手引き・生活の手引き）を作成し、映像化（学びデオ）もしています。特に授業のスタンダードは6年生の授業場面を録画し、ビデオを見ながら、各学級で指導できる工夫をしています。また、この動画は、4月に赴任した教員と具体的な指導を共通確認する上でも役立っています。さらに、年度途中に

	第1-2学年	第3-4学年	第5-6学年
学習への構造	○少しだけノートを作りながら使っている。 ○タブレットやスマートフォンで使っている。	○タブレットやスマートフォンで使っている。 ○タブレットやスマートフォンで使っている。	○タブレットやスマートフォンで使っている。
手順	○手順を教えるときには、手を動かしながら説明している。 ○手を動かしながら説明している。	○手順を教えるときには、手を動かしながら説明している。 ○手を動かしながら説明している。	○手順を教えるときには、手を動かしながら説明している。
時間	○1回の授業で終わらせる。 ○複数回の授業で終わらせる。	○複数回の授業で終わらせる。	○複数回の授業で終わらせる。
材料	○教材を用いて説明する。 ○教材を用いて説明する。	○教材を用いて説明する。 ○教材を用いて説明する。	○教材を用いて説明する。
操作	○手を動かしながら説明する。 ○手を動かしながら説明する。	○手を動かしながら説明する。 ○手を動かしながら説明する。	○手を動かしながら説明する。
評価	○全員の手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。	○全員の手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。	○全員の手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。
学習中の評価	○手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。	○手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。	○手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。
学習終了時の評価	○手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。	○手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。	○手書きの回答をもとに、各学年別の基準で評価している。 ○各学年別に評価する。

長束スタンダード（学びの手引き）

は、各教員が自身の担当学級や授業について、「長東スタンダード」がどの程度達成できているかを自己評価し、進捗状況を確認し合う機会をもっています。このように、共通の指導を徹底することにより児童の学習規律、学習習慣をより確かなものにしています。

このような学校での取組とともに、児童の学習習慣や学習意欲を育成する取組として、「つながるノート」と称した家庭連絡ノートを全校統一して使用しています。「つながるノート」には、次の日の連絡（学習内容）だけでなく、自分の心身の状態や一日の学びの振り返りを記入する欄を設け、それを保護者に見てもらうようにしています。そうすることで児童の状態や学習内容を保護者に把握してもらうとともに、適切な声かけにより、児童の学習意欲を高めることにも役立っています。

（2）教師の授業力を高める取組

学力向上総合対策事業に係る研究授業を含め、校内一人2回の研究授業実践をとおして、意欲をもって学び、自ら考え判断し表現する児童を育てる授業モデル（長東スタイル）を創造することを目指しています。具体的には、発表話型やつなぎ発言を指導したり、振り返りをきちんと書く指導をしたりするなど言語活動を充実させ、児童の思考力・判断力・表現力の育成を図っています。また、各教室に整備されているPCや教材提示装置、50インチTV、デジタル教科書等を効果的に活用できるように、ミニ研修等をとおして情報交換を積極的に行ってています。このミニ研修は教師が互いの得意分野を生かし講師を努め、協働性を高めています。内容も効果的なICT活用や教科指導の工夫の他、全国学力・学習状況調査問題を自分で解いたりしています。このように、総合的に教師の見識を深め、授業力と協働性を高める取組を積極的に行っています。

（3）基礎的・基本的な学力の定着のために

朝・昼の15分間を帯時間として活用できるようにし、週8コマを確保できるようにしています。これにより、高学年も週3時間の英語に加えて、算数科や国語科の基礎的・基本的な学力の習熟を図ることができるようになりました。また、帯時間で扱う内容を年間の単元指導とリンクさせることにより、より確かな基礎学力の定着をねらっています。

また、毎週木曜日を5校時としたり、従来サマースクールしてきた夏期休業の前半を授業日とし、後半にサマースクールを設定したりするなどして、授業時数を確保しながら、より丁寧に、より計画的に学力の定着を図れるように工夫しています。

平成26年度日課表

月	火	水	木	金
8:25	朝登校	午前	チャレンジ	朝登校
8:40	朝の会	（アドレングル）	読み聞	朝の会
8:55			読み聞	朝の会
9:10				1
9:40				2
10:25				大休憩
10:45				3
11:25				4
12:00				算数
13:00				基礎学習
13:30	英語	英語	英語	英語
14:50	英語タイム	英語タイム	英語タイム	14:50～15:45 休憩5分間
14:10	5	5	5	15:45～16:45 休憩5分間
14:55	午後の会議午後	5	5	5
15:45	午後の会議午後	午後の会議午後	午後の会議午後	16:30～17:30 休憩1時間
16:00	午後の会議午後	午後の会議午後	午後の会議午後	午後の会議午後
16:10	五色会	五色会	五色会	五色会

* チャレンジ会議や算数タイム

* 丸字タイムは高学年10日英語1回園芸 風中学生：園芸

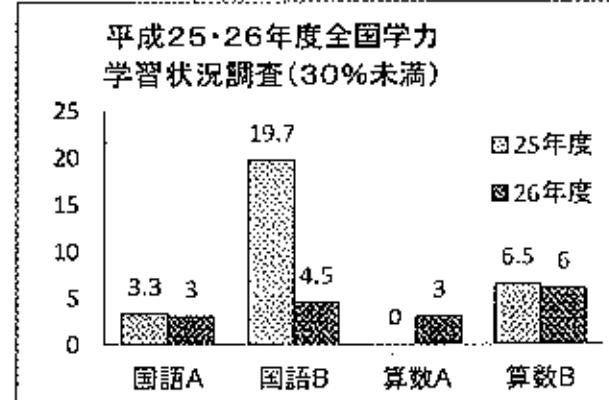
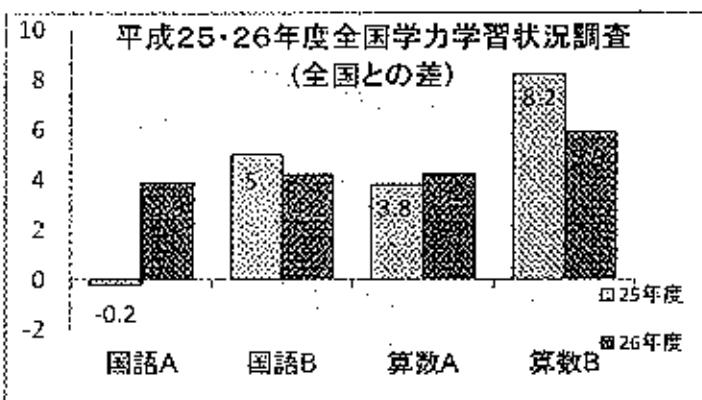
【校長先生からのメッセージ】

長東小学校では、教科指導の学びと同様に、人が人として生きる力をつけることを大切にした教育をしていきたいと考えています。そのためにも、「長東スタンダード」や「つながるノート」を大切にし、家庭と連携して子ども達を育てていきたいと思います。また、教師にとって、授業で子ども達に力をつけることこそ使命だと考えます。研究を重ねることなくして教師としての成長もありません。本校では様々な研修を通して教師としての力量を高めていき、子ども達に力をつける学校をめざしています。

～全教職員で授業改善の取組の方向性を共通理解～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A・B、算数A・Bともに全国平均を上回りました。特に、国語のA問題は、平成25年度に比べて向上が見られました。
- 国語のB問題において、正答率30%未満の児童の割合が大きく改善されました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 全学級で「めあて」「まとめ」カードを活用したり、デジタルカメラを配置したりすることで、全教職員が授業づくりにおける共通の取組をします。
- (2) 自力解決場面での交流方法や集団解決の場の構成の仕方、自分の考えの広がりや深まりが見られるノート作りについて研究を進めることで、児童の表現力の育成を図っています。
- (3) 授業後の協議会では、協議の内容を綴って協議したり付箋紙を用いて考えを共有化したりすることで、全教職員で授業改善の取組の方向性を共通理解しています。

(1) 全学級共通の取組：機器の活用

自力解決への意欲につながるようなめあてや見通しのもたせ方、めあてと整合性のあるまとめについて意識した授業ができるよう、全学級に「めあて」「まとめ」カードを配布しています。

平成23年度に全学級に教材提示装置を設置し、平成24年度には全学年にデジタルカメラ、ホワイトボードを、低・中・高学年にビデオカメラを配置しました。

【今年度の授業の流れと時間配分の目標】

- ①課題提示、解決の見通し（5分）
- ②自力解決場面（15分）
「自力解決 → 交流 → 自力解決（修正）」
（10分）（2分）（3分）

【指導者がすること】

- （2分）児童の観察と支援の必要な児童の発見
- （3分）支援の必要な児童への支援
- （5分）発表者を決めて、発表の準備をさせる
- ③集団解決場面、まとめ（20分）
- ④適応問題、振り返り（5分）

年度はじめの全体研修会では、「今年度の授業の流れと時間配分の目標」を提示し、全学級で授業づくりにおいて共通の取組ができるようにしています。

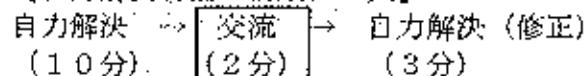
(2) 自力解決場面・集団解決場面の工夫

考えを広げ、深めることのできる指導の工夫として、自力解決場面で交流・修正タイムを取り入れました。そして、どのような交流方法が有効なのか、各学年の実態に合わせて研究を進めました。

集団解決場面では、指導者が構成を考えて発表順を決めたり、出された考え方をより広げ深める方法として、言葉・式・図を関連付けた説明、他の児童による説明や質問、指導者による問い合わせ、比較して共通の考え方を見つける活動を取り入れたりしました。

学習の足跡が残るノート作りでは、自分の考えを言葉・式・図を関連付けて表現すること、色を変えて自分の考えを加筆修正すること、授業最後には自分の考えの広がりや深まりを言葉で振り返ることを、全学級で取り組みました。

【自力解決場面の構成の工夫】



どのような方法が有効か?
(ペア・グループ・自由など)



【児童のノート（5年生）】

(3) 協議会の工夫

校内全体研究授業後の協議会では、①自力解決場面での交流方法 ②集団解決場面での構成の仕方 ③ノートの使い方 に絞って協議を行います。本時の授業だけではなく、他クラスでの事前授業や前時までの授業をVTRで視聴したり、授業の気付きを記入した付箋紙を集めて授業後すぐに印刷して協議会で全員に配布したりして、成果や課題と解決方法を協議します。全学級の取組を共有化し、授業改善を図っています。

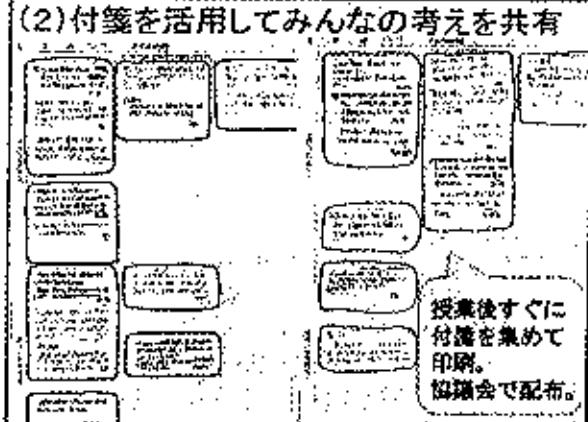
また、校内全体研修会後、成果と課題をまとめ発表する「成果と課題報告会」を行っています。全教職員が課題を共通理解し、明日からの授業の中で改善を図るようにしています。

【校長先生からのメッセージ】

本校は、平成23年度から算数科の研究を進めてきました。教材研究の仕方、授業構成、児童の見取り等、全教職員で共通理解を図り、授業改善や児童の学力向上を目指しています。

算数科に限らず他教科においても同じように実践することで、児童の思考力・判断力・表現力はさらに向上することと思います。

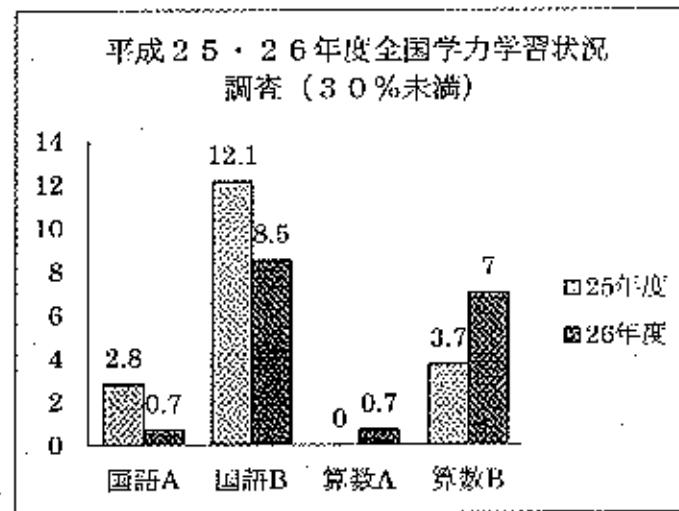
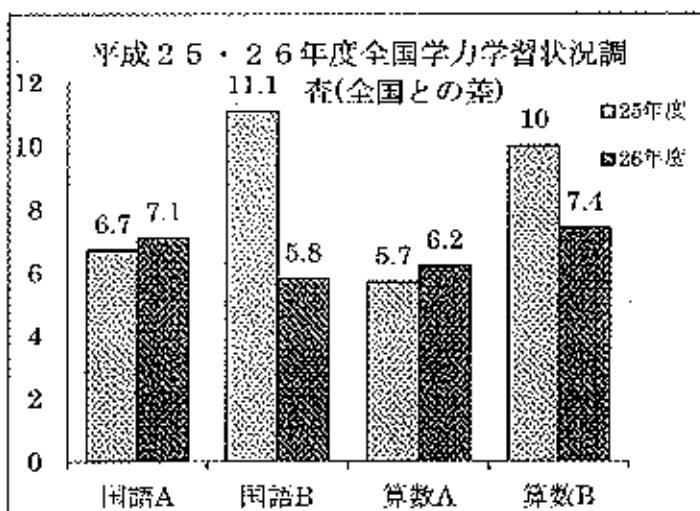
【協議会で使用する付箋紙】



～授業研究の日常化を図る取組～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 平成25、26年ともに国語A・B、算数A・Bが、全国平均を大きく上回りました。
- 国語A・Bにおいて、正答率30%未満の児童が減少しました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 木曜研修会（もっけん）を実施することで、研究の日常化を図る。
- (2) 研修の振り返りをポートフォリオ化することで、研修の学びを日常に活かす。
- (3) 週案を活用することにより、日々の授業の指導と評価に活かす。

① 木曜研修会（もっけん）の実施

南観音小学校では、木曜研修会を「もっけん」と呼び、学年単位、ブロック（低・中・高学年）単位で研修を行っています。南観音小学校では、理科・生活科を研究教科としており、教材研究、指導案検討、模擬授業の実施などを行い、授業研究の日常化を図る取り組みを行っています。研修時間は、



基本的に1時間として実施し、授業で重視する点や、単元を通して獲得させなければならない内容などについて共通理解を図るようになっています。「もっけん」の有効な活用により、校内授業研修会は、基本的に学年で取り組むべきものであり、学年の収組として公開することが定着しています。そのため、授業者のだけの力量ではなく、学年全員の力量形成に大きな役割を果たしています。

(2) 研修の振り返りのポートフォリオ化

南觀音小学校では、校内授業研修毎に個々の教員が振り返りを行い、日々の授業改善に活かすようっています。全ての教員にとって研修の機会を有効な力量形成の場ととらえ、年間を通しての教員の力量形成をめざしています。

具体的には、年度はじめに個々の教員が自分の研究テーマを決めます。その研究テーマは、学校の研究主題をもとに考えるようになります。それぞれの課題に応じてテーマを決定します。自分の研究テーマにそって、各教員が年間6回の校内授業研修会毎に学んだことを記録します。これをポートフォリオ化し、研修での学びを明確にしていきます。また、日々の板書についても写真で貼り付け、良い板書を記録として残すようにしています。このように研修の記録をポートフォリオ化することで、1年間の自分の学びが見えるようになっています。

【個人研究テーマ】

令和2年度 校内研究振り返りカード			
名前	性別	年齢	学年
西田 さくら	女	10歳	5年
研究テーマ 「児童の学習意欲を高めるための授業づくり」			
感想 児童の学習意欲を高めるための授業づくりについて、自分なりに考えました。児童が自分で学ぶことを楽しむための工夫を試してみたところ、児童の学習意欲が高まることに成功しました。			
研究テーマ実現目標		自分の成長目標	
児童の学習意欲を高めるための工夫を試してみたところ、児童の学習意欲が高まることに成功しました。		児童が自分で学ぶことを楽しむための工夫を試してみたところ、児童の学習意欲が高まることに成功しました。	

【校内研修会毎の振り返り】

令和2年度 校内研究振り返りカード			
名前	性別	年齢	学年
西田 さくら	女	10歳	5年
研究テーマ 「児童の学習意欲を高めるための授業づくり」			
感想 児童の学習意欲を高めるための授業づくりについて、自分なりに考えました。児童が自分で学ぶことを楽しむための工夫を試してみたところ、児童の学習意欲が高まることに成功しました。			
研究テーマ実現目標		自分の成長目標	
児童の学習意欲を高めるための工夫を試してみたところ、児童の学習意欲が高まることに成功しました。		児童が自分で学ぶことを楽しむための工夫を試してみたところ、児童の学習意欲が高まることに成功しました。	

(3) 週案の活用

週案では、毎時間の授業の「ねらい」を記述し、その時間毎の「ねらい」が達成できたか○△で評価しています。そのようにすることで、学習内容を明確にし、児童の学習状況についていつでも確認ができるようにしています。その週案には、校長の授業観察や調査を見てのコメントが書かれています。校長は、それぞれの教員の人材育成を目的とし、コメントをするように心掛けています。

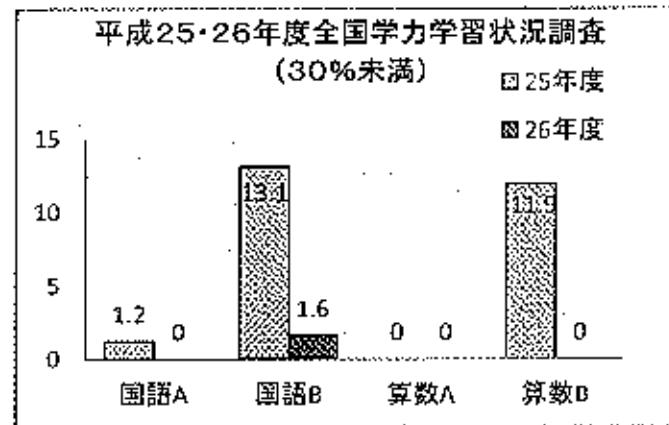
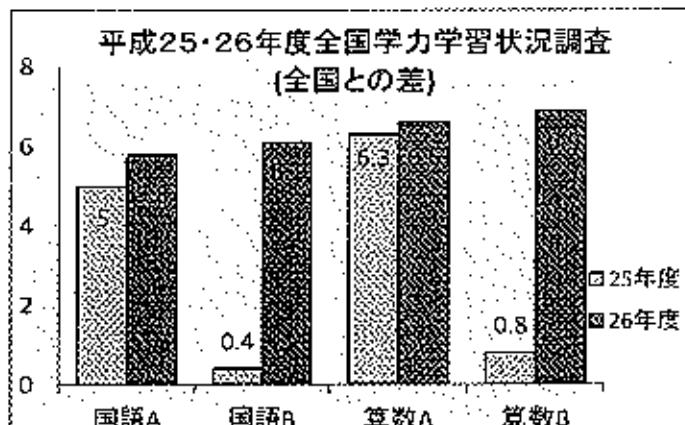
【校長先生からのメッセージ】

本校は、H24、25、26と授業改善推進校の指定を受け、理科・生活科を研究教科として設定しています。理科・生活科の授業づくりや全体研修会で学んだことを日々の授業づくりに活かせるように研修部を中心に工夫した取組を行っています。それが、「もっけん」や「研修の振り返り」です。これらの取組により、授業研究の日常化をめざしています。

～めざす児童の姿の具体化と共有化～

1 全国学力・学習状況調査の結果

- 国語A・B、算数A・Bとともに全国平均を大きく上回りました。特にB問題は、平成25年度を大きく上回っています。
- 国語A、算数A・Bで、正答率30%未満の児童が0になりました。



2 効果があったと思われる取組

- (1) 既習事項の定着を図る取組や、既習事項を活用した自力解決の充実をめざす研究を進めることで、自分の考えを伝えたい、友達の考えを知りたいと思う児童を育てています。
- (2) 自分の考えを相手に分かりやすく伝える方策や、ペアトーク等のグループ活動の効果的な活用を研究することで、児童の表現力の向上を図っています。
- (3) 校内研究授業において、評価の視点を明記したシートを活用して児童の姿を見取り、それをもとに協議会を行うことで、教職員全員でめざす児童の姿の具体化と共有化を図っています。

(1) 自力解決の充実をめざす研究

帯時間の活用や家庭学習の内容の工夫などを通じて、計算力の向上を図りました。1～4年生の週2回の帯タイムを百マス計算の日としました。1～4年生については、百マス計算用のノートを全員購入し、ノートの表紙に学年・組を記入せずノートは持ち上がりとしました。そして、学年主任会で取組の進捗状況を報告し、基礎的・基本的な計算力の定着を図っています。

校内全体研修会では、全学年が授業公開し、具体的な授業場面での自力解決に向けた手立てについて研究を進めました。児童の姿から、本時までの既習事項の定着、本時に必要な既習事項、問題提示や課題のつかませ方、自力解決のための本時の手立て等を評価し協議していました。

児童からは、「自分の考えをみんなに見せました。結果は間違っていたけど、自分の考えをもつことができたのでよかったです。」「○○君が分からないと言い、みんなの考える元となりました。

考えも1つだけでなく2つ出てきておもしろかったです。」「黒板に書いた式の説明ができませんでした。でも、〇〇さんが助けますと言ってくれたので助かりました。」などと、自分の考えをしっかりともち、相手に伝えたい他の考えを知りたいという思いをもった感想が聞かれました。

(2) 相手に分かりやすく伝える方法の指導

自力解決場面の思考の充実を継続し、思考を整理し表現する場の一つとして、ノート指導の充実を図りました。年度はじめにノートの雰囲形を示し、各学年の発達段階や実態に応じて工夫をしていました。

説明が苦手な児童への支援の一つとして、各学年の発達段階や実態に応じて話型を工夫し掲示しました。

【5年生の話型】

●「考え方の室」における	
○の考え方	自分の内見したことと何が具体的なものに書きかえて話す。 「例えば、これを〇〇とします。どうする感じ…」
○のどいて、でも	反対をあげたり理由を述べたりしながら話す。 「だってかけやねる数が…」
○のまじめにあれから	考へている内容を整理して話す。区切りながら話す。 「まず底方体になるように2つに分けて…」 「それからなじむ側と高さの奥さを…」 「ここまではいい？」
○のどうたら	活動の先を考えて話す。 「ほかならどうかが増すもっと大きくなると…」
○のもしよ	結論を考えたり、長いことを整理したりして、一般化して話す。 「もしも五角形でなく三角形だと…」

【児童のグループ活動の様子】



また、伝え合う経験の場を数多く設け、伝え合うことに慣れたり分かりやすく伝え合うコツをつかんだりすることができるよう、ペアトーク等のグループ活動を効果的に活用しました。

(3) めざす児童の姿の具体化と共有化

各学年を基盤に取組を進めています。学年会において、教材研究や成果・課題の共有をし、学年主任会で取組の進捗状況の確認を行っています。さらに、児童の実態を把握するために6月を授業参観月間とし、全学級の授業公開を行い取組のプランを確認しています。

校内全体研修会の授業後協議会では、評価の視点を明記したシートを全教職員が持って児童の姿を見取り、付箋紙を用いて協議会を進めます。教師の手立てが有効であったかどうかに視点をあてて協議を行い、改善案の提示までねらっています。

最後に、今日の研修会を通して学んだことの整理を個人で行い、それを発表して全教職員で学びを深めています。

【校長先生からのメッセージ】

本校では、どの学級でも同じ学びを保障できるよう、具体的な児童の姿を共通理解し研究を進めています。各学年や各ブロックで、指導案を検討するだけではなく授業観察も行っています。どの教員も、楽しんで研究や授業をしています。

【評価シート（1年生）】

児童名	評価の視点	〇〇〇
○(他の人が何) という言葉から図りはる、説明している。		
○自分の意見を誰かのところに説明している。		
○「何が何」という絞り始めた言葉で何を持って説明している。		
○その結果を導く。		
● 具体的要素を自分の言葉で書かれており、説明したりしている。		
○「何が何」という言葉から絞りはる、説明している。		
○自分の意見を誰かのところに説明している。		
○「何が何」という絞り始めた言葉で何を持って説明している。		
○その結果を導く。		
● 文字の表現を自分の言葉に書き換えており、説明したうえでいる。		